

オルケストラ シンフォニカ 東京

第 30 回

定期演奏会

平成元年 4 月 24 日 (月) 午後 7:00 開演

日比谷 第一生命ホール

[JR: 有楽町駅 地下鉄: 銀座又は日比谷駅下車]



御 招 待

[皆様お誘い合せの上ご来場下さい]

プログラム

第 1 部

指揮：石 黒 不二夫

セレナータ No. 2

平 山 英三郎

雨 と コ ス モ ス op 49

武 井 守 成

びん ろう じゅ
檳 榔 樹 op 74

武 井 守 成

過ぎた日の熱情

川 崎 貞 利

第 2 部

編曲・指揮：高 野 吉 司

序曲：ローマ・トリーノ

D. D. ジョヴァンニ

ロマンツァとポレロ：雪

G. ラヴィトラーノ

パ サ コ ー レ

C. F. グノー

カタロニアの印象

F. ウイット

〔休憩〕

第 3 部

編曲・指揮：高 野 吉 司

ミュージカル・ファンタジー 天竜と伊那人

大 栗 裕

ソプラノ：野 口 京 子

ナレーター：汐 見 直 行

曲 目 解 説

第 1 部

セレナータ No. 2

平 山 英三郎

作者は早稲田大学在学中、マンドリン楽部に在籍、演奏指揮に当り、卒業後今日迄マンドリン・ギターの指導及び作曲家として活躍されています。砦会を主宰され、又当楽団の特別会員として今夕の演奏に参加されるなど、喜寿をお迎えになられても益々矍鑠としておられます。

この曲は7曲のセレナータの内第2番目の曲で、作品としては初期(昭和10年代)のものであります。導入部が短かく全体にリズムカルで、マンドリンの特徴が豊かに表現されており、特にFINEをマンドリン・ソロで括っているのが印象的です。

雨とコスモス

武 井 守 成 op.49

作者は当楽団の前身であるオーケストラシンフォニカタケイ(旧OST)の創設者で、宮内省の要職にありながら楽団の育成と作曲に専念し新楽の発展に貢献されました。最終作品No.は114。昭和24年急逝さる。享年59才。

この曲は昭和16年1月の作、昭和7年作者が何故か作曲の筆を擱いてから10年、再びその胸に蘇った作曲に対する意欲から生れたと思われ、この年は一挙に11曲(合奏曲3・ギター曲8)を作曲しております。

作者の言葉……庭先きの垣の際に、丈高い1本のコスモスが、どうしたことが咲き残っている。しめやかに——とはいえず音を立て、降る雨に、花びら一つ動かさずともせず、空を仰いで清らかに立っている。それは不思議に古典的な美しい姿であった。……

檳榔樹

武 井 守 成 op.74

昭和18年2月の作、2・3・4拍子が数小節毎に交錯する目まぐるしいテンポの変化と、この作者には珍しく奔放な手法を駆使し、所謂武井調から脱却して突然変異とも思われる曲想をもっております。

初練習の時、当時のメンバーは至極とまどったらしく、作者がこの曲の題名をメンバーに相談募集した際、ジョークのうまい高田三九三氏(詩人・現メンバー)が合奏でのとまどいをズバリ表現して「五里霧中」という珍題を提案した——というエピソードが残っています。後にこの題名がつけられたが、南方に見る椰子科の植物は檳榔子^{ピン}であり作者が何故檳榔樹^{ピン}という造語にしたか、その謂れは定かではありません。

過ぎた日の熱情

川 崎 貞 利

作者は当楽団のメンバーであったが昭和55年病没されました。代表的な作品には、この曲の外に「西域より」「山峡」などがあります。昭和40年代の作品であるこの曲は、作者の青春時代の思い出が凝縮されており、最初は「忘れられない」という題名をつけるつもりであったといわれております。

若き日の情熱が憂いを込めて沸々と感じられると共に、作者のプレクトラム楽器への解釈が、曲の随所に見られます。

第 2 部

序曲：ローマ・トリート

D. D. ジョヴァンニ

作者はイタリアのポローニア生れで、1879年頃よりその才能が認められ、主に吹奏楽関係に關与する傍らマンドリン音楽

の作曲家として各地の作曲コンクールに応募して、多くの受賞作品を物にしております。その作品は旧OSTの第75回定演に「静かな湖」を、第87回に「序曲センピオーネ」を、そして前回には「我等が懐しき山々に」を夫々演奏しました。今回は第9回イル・マンドリーノ作曲コンクールで入賞の栄に輝いたローマ・トリノ大博覧会への序曲としての、本曲を採り上げました。激しくたぎる力の表現に続いて、静かな美しい旋律、再び激しく、そして軽快なテンポに続くしたる様な終曲と5つの部分から構成されております。

ロマンツァとボレロ：雪

G. ラヴィトラーノ

作者はイタリアのナポリ湾頭にある美しいイスキア島で、19世紀の末期に生れ、永年アルジェリアの地中海に沿ったポーナ市に住み、1938年12月同地で亡くなっています。その作風は国籍がフランスであるに拘らず、アルジェリアの熱く明るく輝く異国情緒豊かな息吹きが感じられます。本曲は1910年イル・プレットロ第2回作曲コンクールの受賞作で、副題に「4重奏のためのロマンツァとボレロ」と書かれており、今回は管・打楽器を加え編曲したものを演奏致します。「レナータ」「ローラ序曲」と共に3大傑作として知られている本曲は特に個性的であり、強烈なリズムとロマンツァとの対比は素晴らしく、特に初めの部分は聴く人の心に印象深く残ることでしょう。

パサコーレ (パッサカリア)

C. F. グノー

グノーは1851年来オペラの創作に主力を注ぎ、19世紀後半フランス ロマン派の作曲家として活躍した人で、その代表作オペラ「ファウスト」は普く知られるところであります。彼はかの有名なマンドリニスト、フェルナンド・クリストファロのピアノの伴奏をしたこともあり、又ギタリスト、ボスクとも交りがありました。このパサコーレはグノーがボスクに書き与えたものと伝えられています。原曲はピアノか器楽か審らかではありませんが、この曲がギター独奏曲(ハイネ・ボスク編)として手元にありましたので、今回それに基づいて合奏用に編曲してみました。標題も「パサコーレ」となっているので、そのまま引用致しました。ボスクは1826年バルセロナに生れ1895年パリで亡くなったギタリストで、自らギターの王と称えパリにあってギター界に君臨しておりました。因にパッサカリアとはスペインに発生した古い3拍子の舞曲のことです。

カタロニアの印象

F. ウィット

昭和49年旧OSTのヨーロッパ演奏旅行の折、西ドイツ ヘルネにて同地のマンドリンクラブの指揮者でありドルムント青年音楽学校で教鞭をとられB. D. Z. (Bund Dentcher Zupfmusiker)の委員として活躍しておられる作者より、自筆原譜を頂いたもので、作者がスペインのカタロニアに赴いた時の印象を軽いタッチで舞曲風に画いたものです。原曲にタンバリン・カスターネット・マラカス・グイロ等の打楽器を加えて編曲し、更に楽しい舞曲に色づけしてみました。

第 3 部

ミュージカルファンタジー
天 竜 と 伊 那 人

作曲：大 栗 裕
編曲：高 野 吉 司

作者は1955年木下順二作「赤い陣羽織」を関西歌劇創作オペラ第1回公演に武智鉄二演出により初演、又1957年ベルリンフィルに捧げられた「大阪俗謡による幻想曲」は朝比奈隆の指揮で初演、共に氏の代表的作品となり1958年大阪府芸術賞を受けております。辻久子により発表された「ヴァイオリン協奏曲」或は江利チエミの為のミュージカル「私はビジネスガール」、NHKの「紀の川」等幅広い作品を物していましたが、その才能を惜しまれつゝ昭和57年に他界されました。京都女子大・大阪音大の講師を勤める傍ら、関西のマンドリンクラブの指導にも当り「ごん狐」「兵六とそばの花」等マンドリンの為の音楽物語もいくつか残されております。

(物語)

その昔、信州伊那の谷は、それは大きな湖でした。そこの住人である伊那の衆は、米を作ることも知らず、たゞ魚をとり栗の実を食べ、野山に兎を追って生活をしていました。

そこへ北の国からイナトがやって来て、米を作りそれを食べていたので伊那の衆から爪はじきにされ、鬼の化け物ではないかと誰も近づいて行こうとはしませんでした。

一人ぼっちの淋しいイナトではありましたが、りんどうのような、気立ての良いみなしごのツユを知り、毎日の逢う瀬を楽しんでいました。しかしそれも束の間、南の国からやって来て伊那の湖に住み着いた、暴れん坊の天竜がツユを嫁にしたいと言出して、伊那の衆にツユを明日の朝までに茅の森に運んでおけ、と言うのでした。……………。

南アルプスと中央アルプス、そしてその二つの大山脈に囲まれた伊那谷を貫く天竜川、その天竜川を正義と勇気との激しい炎の色に染める信州民話のベースとユーモアが、イナトを中心に織りなされて行く物語です。

野口京子

横浜市在住。上野学園短大声楽科・専攻科卒業。同附属中・高校講師。

二期会第5期研究生。朝日放送、「ホームソングコンクール」声楽部門第1位。

汐見直行

劇団「手織座」幹部。「檜山節考」の辰平役は好評を博した当たり役。様々な作品に挑戦してますます芸にみがきをかけておられます。

加除式法規書・法令解説書出版

中央法規出版株式会社

本社 〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野1-43-7 JR東中野駅東口南下車3分 TEL(363)9893

取扱品目

- ★ 手工マンドリン・ギター各種
- ★ 各社マンドリン・ギター
- ★ マンドリン・ギター用弦及附属品

お気軽にお立寄り下さい。

マンドリン教室

平山英三郎先生

ギター教室

平山英三郎先生

指	揮： *高野吉司	コンサートマスター： *肥沼成明		
	*石黒不二夫	本間輝樹		
第一マンドリン：	肥沼成明 本間輝樹	新居裕久 秋元興光	坂本尚子 幸田禎治	田崎賢治 布施恒太
第二マンドリン：	宮崎泰行 *岡田茂	市毛利喜夫 長利一夫	浅井キク 玉木利恵子	村上貴生 村上二郎
マンドラ：	*岩片順子 田中倭文子	石井栄一 渡辺清	藤田正美 佐藤一徳	
ギター：	*今津章 *山本雅三	宮本紀子 城所敏雄	西原正 高橋悠介	沢田行雄 高畑仁
マンドチェロ：	鈴木功	平山英三郎	宮本皓永	
マンドローネ：	高田三九三	*家城孝治		
コントラバス：	石黒不二夫	佐藤正		
アコーディオン：	家城孝治			
フルート：	宇野浩二			
クラリネット：	大塚精治			
ピアノ：	福田りさ			
打楽器：	松原竜一			

ソプラノ：	野口京子			
ナレーター：	汐見直行			[* —— 役員]

最近の主な演奏活動： 昭和63年 9月 こどもの城円形劇場（子どもの歌まつり）
 // 9月 新宿文化センター（第6回関東マンドリン フェスティバル）
 // 10月 中央会館（松風塾高校MO第16回東京定演・賛助出演）
 // 11月 杉並公会堂（38回杉並区総合文化祭）
 // 11月 青森市文化会館（松風塾高校MO第13回青森定演・賛助出演）

オルケストラ シンフォニカ 東京 事務所
 〒241 横浜市旭区中尾町 82-1
 電話 045-363-1046 代表幹事 今津 章